

6月3日 日大生共闘政治委員会 理工学部闘争部 30 新米

6月4日 中村君、精谷君の虐殺を告発する集会

日本大学学生会闘争部 理工学部学生会

まさに今、我々に、そして君に問われている。

吉田首相の閣内改組を許すのか、否か！

大塚首相、相互防衛協定のロッキンアウトを許すのか、否か！

右翼団体暴行事件の起訴を許すのか、否か！

米軍のカンボジア軍事介入を許すのか、否か！

日米両軍団主義の「東洋12年返還」を許すのか、否か！

我々は、この否定的な態度と自らの体によって道義を争いながら、そこに歴史として、主体的に、革命的に、立ち上らなければならない。己の存在を証明するために闘争し続けなければならない。現在我々は「激動の白昼」に向かい、一人の人間が、真に人間としてこの「日本斗争」を、そして「白昼闘争」を、いかに生きかか、倉庫石的にせまられている。

全ての相互防衛の暴反撃を！

我々が米軍の反革命的軍事介入と闘っているインドシナの革命的人民に、そして韓国共闘部闘争の闘いに決起している全ての世界的労働者に、連帯し勇気を出せ！ この闘いを通して、真実の革命的な主張を全人民的に展開することも出来ないか！

全ての日本下等の人々を！

と云う態度、態度、たゞ然る前に、徹底的な闘争の道徳を上げようではないか！ 革命的に闘うのは歴史を、右翼暴力に打ち勝つのは革命的な人民の力から来るべき。